

| 区分 | チェック項目 | 事業所の現状評価 | | | 保護者の方の評価 | | | | 評価を踏まえた改善内容・改善目標 | | | | |
|----------------|--|----------|-----------|-----|--|----|----|-----------|------------------|-----|-------|--|---|
| | | はい | どちらともいえない | いいえ | 工夫した点、改善点 | | はい | どちらともいえない | | いいえ | わからない | 保護者の方のご意見 | |
| 関係機関との連携（続き） | 3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備 | | | | | | | | | | | | |
| | 4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有 | 1 | 1 | | 自事業所での研修会等に参加していたり、互いに保育所見学、保育所より事業所見学を行っている。必要に応じて支援会議を実施している。状況に合わせて、WEB会議などを取り入れながら、継続して連携がとれるように努めた。 | | | | | | | 必要に応じて情報共有が行われてはいるが、リレーファイルの活用がもう少し促進されると良い。そのためには、こちらからの働きかけも必要。 | |
| | 5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供 | 1 | 1 | | | | | | | | | | 互いの状況を知ったうえで、利用者がより効果的に療育を利用できるようにしていきたい。 |
| | 6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進 | 1 | 1 | | 療育等支援事業を利用したり、他事業所での研修に参加している。 | | | | | | | | つながりのある専門機関とは、研修の依頼や相談などを継続し、緊急の際にもアドバイスいただけるような関係性を持ってほしい。 |
| | 7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供 | | | 2 | | 5 | 2 | | 3 | | | | 多くの利用児は保育所を利用されているため、事業所内での交流の機会はない。 |
| | 8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営 | | | 2 | | | | | | | | | 現状、感染対策として、特に地域との関係性がうすれているが、感染のおさまりを持って、機会を増やしていきたい。 |
| 保護者への説明責任・連携支援 | 1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明 | 1 | 1 | | 丁寧な説明を心掛けるよう努めている。 | 10 | | | | | | | |
| | 2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明 | 2 | | | 丁寧な説明であると感じられるよう、十分な説明を行うことを心掛けた。 | 10 | | | | | | | |
| | 3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施 | 1 | 1 | | 他事業所との協力により、ペアレントトレーニングの手法を活用したプログラムにより実施している。これを活かし、集団療育の際、月1回ほっとたいむ(保護者間の交流)を実施。 | 8 | 1 | | 1 | | | 集団療育後の「ほっとたいむ」(保護者間交流)について保護者からも「おなじ保護者の立場だから言えることもある」という意見があり、期待して参加される方が多く、今後も継続したい。ペアレントトレーニングについての理解が得られるよう今後も引き続き保護者支援の充実を図ってきたい。 | |

| 区分 | チェック項目 | 事業所の現状評価 | | | | 保護者の方の評価 | | | | 評価を踏まえた 改善内容・改善目標 |
|--------------------|--------|----------|---------------|---------------------------|--|----------|---------------|-----|-------|--|
| | | はい | どちらとも いえない | いいえ | 工夫した点、改善点 | はい | どちらとも いえない | いいえ | わからない | |
| 保護者への説明責任・連携支援（続き） | 4 | 2 | | | 月に1回の集団療育後の保護者間での話し合いの時間(ほっとたいむ)を活用したり、療育後に保護者に声を掛けたり、モニタリングの際に、共通理解に向けて努めている。 | 9 | 1 | | | 親子での通所であり、一緒に活動に参加していただけのため、場面によっては支援方法を直接伝えたり、一緒にやってみる事もできる。小さなことでも、短い時間で伝え、子どものできたことや、保護者の良かった姿などを伝える事で、共通理解につながる。不足している所はあると思われるが、記録も活用し合いながら、しっかりと伝えることを継続したい。 |
| | 5 | 1 | 1 | | スタッフ間でも話し合い、相談に応じるよう努めている。 | 9 | 1 | | | 場面を区切って、話しをすることができる事を保護者に周知し、いつでも気軽に相談できるようにしていく。 "ほっとたいむ"の継続もし保護者同士で相談できる場も大切にしたい。 |
| | 6 | 1 | 1 | | 保護者の活動は講演会等を含み年間実施されている。 クラス毎で実施する「ほっとたいむ」では、リラックスした雰囲気の中で連携が深まってきたと思われる。 | 9 | | | 1 | 保護者会については、周知はしているものの、活動のある時に参加ができないことがあるため、保護者会活動として目に見えず、分かりづらい事がある為、周知の方法や説明の仕方を工夫していきたい。 |
| | 7 | 2 | | | 契約時に保護者には説明。 法人内で定期的に委員会の実施。 | 7 | | | 3 | 保護者への説明が不足している。周知の方法を検討する。 |
| | 8 | 2 | | | 意識して情報伝達が正確にできるよう、職員間での連携を図り、迅速な対応が出来る体制づくりに努めている。 | 10 | | | | |
| | 9 | 1 | 1 | | ホームページの掲載。 マチコミの活用。 年1回文集の制作。 事務所内に行事予定の掲示や活動の写真を閲覧できるファイルを用意している。もしくは口頭で伝える事もある。 | 8 | 1 | | 1 | 自分たちができる発信の仕方を工夫していきたい。マチコミメールの配信。 |
| 10 | 2 | | | 契約時に説明等を行い、その後も十分に配慮している。 | 10 | | | | | |
| 非常時等の対応 | 1 | 1 | 1 | | | 5 | 2 | | 3 | マニュアルとしてはあるものの、いざという時に対応できるかやや不安があるが、職員が訓練を重ねていくことで安全に避難できるよう努めていきたい。コロナ感染症については、随時情報が変化していくため、その都度対応も変わっていった。保護者への周知も徹底の機会も作ってきたい。 |
| | 2 | 2 | | | | 5 | 2 | | 3 | 保育所との合同により、避難訓練は実施しているものの、対象児全てにおいてできていない。実施をした際の周知の方法も検討していきたい。 |

| 区分 | チェック項目 | 事業所の現状評価 | | | | 保護者の方の評価 | | | | 評価を踏まえた改善内容・改善目標 | |
|-------------|--|----------|-----------|-----|-----------|---|-----------|-----|-------|------------------|--|
| | | はい | どちらともいえない | いいえ | 工夫した点、改善点 | はい | どちらともいえない | いいえ | わからない | | 保護者の方のご意見 |
| 非常時等の対応（続き） | 3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応 | 2 | | | | | | | | | 外部研修ができない時には、内部で研修の機会を持つようになっている。虐待防止につながる特性理解の研修や、職員の倫理研修等に取り組んでいる。 |
| | 4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・理解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載 | 1 | 1 | | | | | | | | 身体拘束について職員間で検討し、理解をしたうえで進めていきたい。 |
| | 5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応 | | | 1 | 1 | | | | | | 直接的に食事の場面はないが、体調の変化が見られる場面はあるため、把握しておく必要がある。聞き取りをしっかりとるようにする。 |
| | 6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底 | 1 | 1 | | | ヒヤリハット・アクシデントについて、スタッフ間で情報共有し、話し合う機会を設けている。 | | | | | 環境の設定や職員の配置などについて改善点を確認し、同じ失敗のないように心がけている。虐待防止にもつながる場面の検証にもなるため、職員間で意識統一を図りたい。 |

